

Geospatial.jp G空間情報センター

ニュースレター 第54号 2026年3月発行

【目次】

[1. 【TOPICS】アーバンデータチャレンジ 2025 開催報告](#)

[2. 上位アクセス状況\(集計期間：2026.1.1-2.28\)](#)

[3. 最新のお知らせ](#)

[4. AI 変える行政データ活用のかたちー 国土交通データプラットフォームと MCP サーバーが拓く、データ連携の新時代ー](#)

[5. 【アンケートのご協力をお願いします！】 AIGID イブニングセミナー 今後の開催について」 \(受付終了\)](#)

1. 【TOPICS】アーバンデータチャレンジ 2025 開催報告



アーバンデータチャレンジ 2025 実行委員会
事務局

植田 粹美

アーバンデータチャレンジ（以下、UDC）は、地方自治体を中心に公共データを活用し、地域課題の解決を目指す一般参加型コンテストです。年間を通じて開催されるイベントを含み、全国各地でのコミュニティ活動（アイデアソンやハッカソンなど）と、公募型の作品コンテストという二つのパートで構成されています。

今年度の1年間の活動を締めくくる公開最終審査会が、2026年2月21日（土）に開催されました。昨年同様、対面（東大駒場リサーチキャンパス）とオンラインのハイブリッド開催で実施し、200人を超える参加者にご参加いただきました。

全国から応募された169作品から一次審査を通過した[ファイナリスト 20作品](#)（一般部門：15、ビジネス・プロフェッショナル部門：5）の作成者によるプレゼンテーションが実施され、イベントへの事前参加申込みを行った参加者によるオーディエンス投票を経て、各賞の受賞作品が決定されました。

一般部門の金賞には「ちゅーりんうおっち」（チーム名：IT ソリューション室）が選ばれました。本作品は、AI 技術を活用して駐輪場の混雑状況を可視化し、市民の利便性向上と行政の管理負担軽減の両立を目指した取り組みです。実社会での活用可能性や、地域課題への具体的なアプローチが高く評価されました。

ビジネス・プロフェッショナル部門の最優秀賞には「～都市居住環境を高速でデジタル化～ 生成 AI 駆動型三次元建物モデリングシステム」（チーム名：デジタルシティ・クリエイターズ）が選ばれました。本作品は、都市の 3D モデル生成プロセスの効率化を目指し、生成・評価・可視化を一連で自動化する仕組みを提案したもので、技術的な先進性と実務への展開可能性が評価されました。

最後に、UDC の各地域拠点に送られる地域拠点賞については、活動で最も優れた地域拠点に送られる「ベスト地域拠点賞」を「長崎ブロック」が受賞されました。これに伴い、次年度の UDC 中間シンポジウムは 2026 年秋頃に長崎県で開催されることとなります。

今年度の最終審査会の様子を収録しアーカイブ動画は、[YouTube](#)にて公開しております。受賞作品のプレゼンテーションや受賞の瞬間の喜びが伝わる映像を是非ともご覧ください。

UDC は 2026 年度も開催を予定しています。近年は学校や教育機関からの参加が大きく増加しており、今年度も多くの学生チームが作品応募および地域拠点活動に参加しました。地域課題を題材に、データ収集・分析・可視化・プロトタイプ開発までを実践的に行う取り組みは、単なるコンテスト参加にとどまらず、探究学習や情報教育、シビックテック教育の実践の場としても広がりを見せています。

特に今年度は、高校・大学等の授業や課外活動の一環として参加する事例も増え、地域の行政やコミュニティと連携しながらプロジェクトを進める姿が多く見られました。実社会の課題を題材とすることで、学生自身が地域との接点を持ち、データ活用を通じて社会に関わる経験を得る機会となっています。

こうした流れを受け、UDC では今後「学校連携」の取り組みをさらに強化していきます。シビックテックやオープンデータをテーマとした授業づくりや、UDC 参加を見据えた開発実習・探究活動の設計など、教育現場と連携しながら、学生が継続的に学び・挑戦できる環境づくりを進めていく予定です。

今後も、地域コミュニティ・自治体・企業・教育機関が連携し、データ活用を通じた地域課題解決の取り組みを推進してまいります。ご興味のある方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。

※全体イベントの情報は [Peatix](#)にてご案内しています。新着情報がお手元に届くよう、ぜひフォローください。

※全国各地のイベント情報は[公式 HP](#)にて随時ご案内しています。



写真：最終審査会の様子

■アーバンデータチャレンジに関する情報

- ・公式 HP : <https://urbandata-challenge.jp/>
- ・公式 Facebook ページ : <https://www.facebook.com/urbandatachallenge/>

■お問い合わせ

アーバンデータチャレンジ 事務局
udc-office(at) aigid.jp ※ (at) は @ に置き換えて下さい。

2.上位アクセス状況(集計期間：2026.1.1-2.28)

登録ユーザー数	116,637 名
期間アクセス数	845,441
登録組織数	726 件
データセット数	14,852 件
ファイル数	151,571 件

人気のデータセット

1	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 東京都 23 区
2	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 中・西部 点群データ
3	林野庁 森林計画対象森林レイヤ
4	林野庁 国有林 GIS データ (2024 (令和 6) 年度版) (最新版)
5	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 千代田区 (2023 年度)
6	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 中・西部 点群データ
7	東京都デジタルツイン実現プロジェクト 区部点群データ
8	農林水産省 林野庁 林野庁・CS 立体図 (能登地域 2024) データセット
9	3D 都市モデル (Project PLATEAU) 新宿区 (2023 年度)
10	VIRTUAL SHIZUOKA 静岡県 富士山南東部・伊豆東部 点群データ

3. 最新のお知らせ

G空間情報センターの最新のお知らせは[コチラ](#)

最終更新順データセット一覧は[コチラ](#)

*リンクを開く際、少しお時間がかかる場合があります。

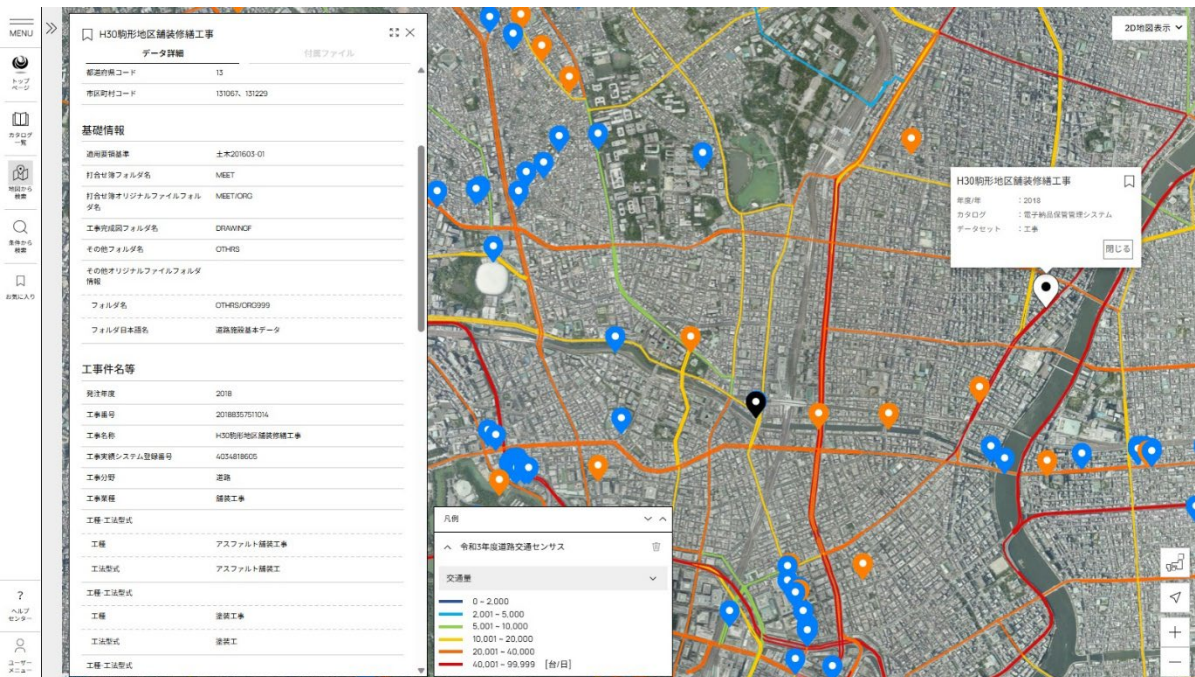
4. AI 変える行政データ活用のかたち - 国土交通データプラットフォームと MCP サーバーが拓く、データ連携の新時代 -



パシフィックコンサルタンツ株式会社
デジタルサービス事業本部

榎本 真美

私たちパシフィックコンサルタンツと AIGID は、国土交通省からの委託を受け、「[国土交通データプラットフォーム](#)（以下、国土交通DPF）」のデータ連携・運用に携わっています。国土交通DPFは、道路・橋梁・地盤・防災・交通など、これまで個別に管理されていた国土交通分野のデータを一元的に検索・取得できるデータ連携基盤です。さらに2025年11月には、AIを使って自然な言葉でデータを検索・取得できる「MCPサーバー」の提供も開始されました。本記事では、国土交通DPFの概要から最新のAI連携の動きまで、実務に役立つ情報をお伝えします。



画像1：国土交通データプラットフォーム

1. 国土交通 DPF とは——23 システムが終結

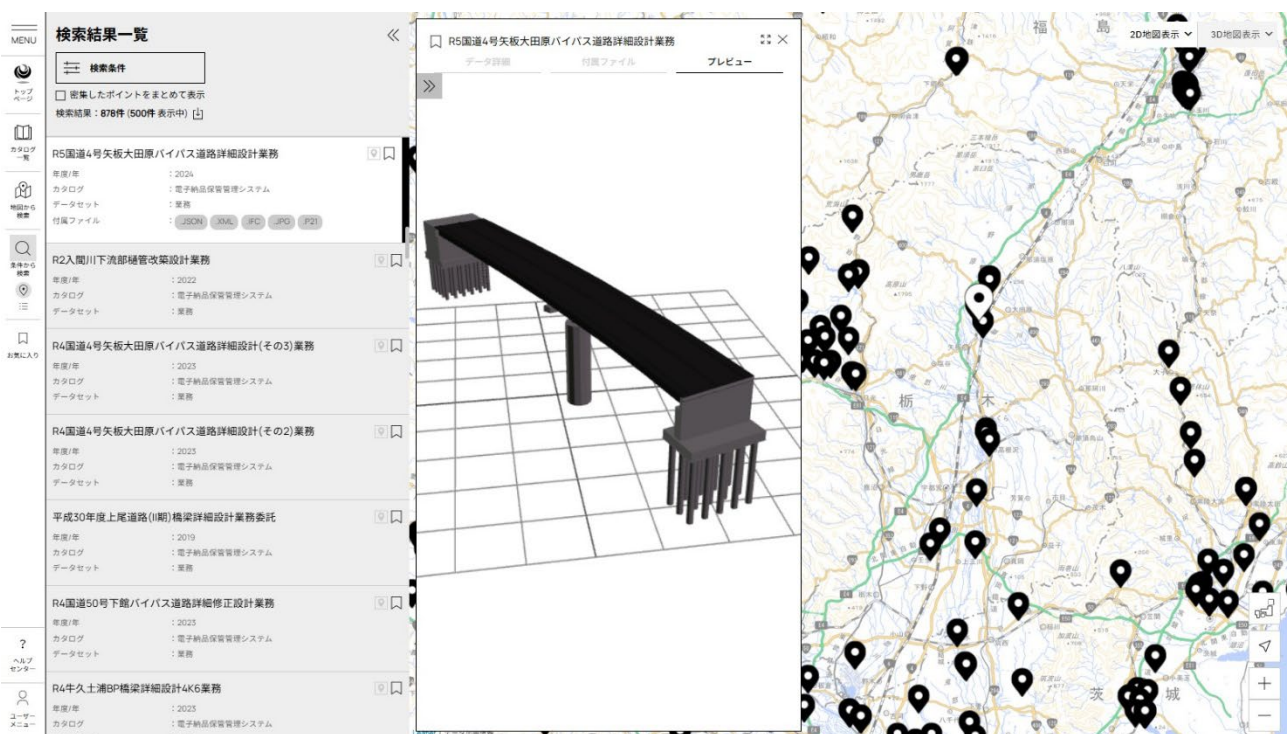
国土交通 DPF は、国土交通省が 2020 年 4 月から公開しているデータ連携基盤です。道路・橋梁・トンネルなどの構造物データ、地盤・地形の情報、交通量や人流データ、3D 都市モデル (PLATEAU)、防災情報など、国土交通分野の多種多様なデータベースを一か所に集約し、横断的に検索・表示・ダウンロードできる仕組みを提供しています。

これまでは「道路の点検データはこのサイト」「地盤情報はあのサイト」と、目的ごとに異なるデータベースを探し回る必要がありました。国土交通 DPF はそうした手間を一気に解消し、ひとつの入口からインフラ分野のデータにアクセスできる「インフラデータのハブ」として機能しています。

URL : <https://data-platform.mlit.go.jp>

2. BIM/CIM や図面の活用——

国土交通 DPF の大きな特徴のひとつが、「電子納品保管管理システム」との連携です。約 14.7 万件の業務・工事の概要を調べることができます (2025 年時点)。工事・業務について、関連する BIM/CIM モデル (IFC 形式) や CAD 図面 (P21 形式) が公開されており、個別のファイル単位でダウンロードすることが可能です。



画像 2 : 設計業務の BIM/CIM モデル

3. MCP サーバー — AI によるデータ活用

国土交通 DPF には、これまで2つのアクセス手段がありました。ひとつは Web ブラウザで操作する「GUI」、もうひとつはシステム間連携のための「API」です。そして 2025 年 11 月、3 つ目の入口として「MLIT DATA PLATFORM MCP Server」が無償で公開されました。

MCP (Model Context Protocol) とは、AI (大規模言語モデル) と外部のデータやツールを接続するための標準的な仕組みです。この MCP サーバーを使うと、Claude Desktop などの AI アプリケーション上で「〇〇駅の近くの避難所データを教えて」「△△市の橋梁点検結果を架設年順にリストにして」といった自然な言葉を入力するだけで、国土交通 DPF のデータを検索・取得できます。

これまで API を活用するには、プログラミングの知識が求められ、IT 技術者以外にはハードルが高い面がありました。MCP サーバーの登場により、API 仕様を知らなくても、普段の言葉でデータにアクセスできるようになります。自治体の現場担当者や、プログラミングに馴染みのない方にとって、データ活用の可能性が大きく広がる仕組みといえます。

MCP サーバーは GitHub でオープンソースとして公開されています。

GitHub : <https://github.com/MLIT-DATA-PLATFORM/mlit-dpf-mcp>



画像3 : MCP サーバの利用イメージ

4. おわりに——まずは触れてみてください

国土交通 DPF は公開以来、データの拡充と機能強化を重ねてきました。32 のデータカタログとの連携により、インフラの維持管理、防災対策、交通計画、まちづくりなど多様な業務の基盤データにワンストップでアクセスできる環境が整ってきています。そして、MCP サーバーの公開により、「AI に聞くだけでデータが手に入る」という新しい利用体験が生まれつつあります。

自治体の皆様にとっては、施設の維持管理計画の策定や災害リスクの把握、住民向けの情報提供など、日常業務のさまざまな場面でデータ活用の可能性があります。建設・インフラ関連の民間企業の皆様にとっても、現場調査の事前情報収集や業務の効率化、新規事業のマーケットリサーチなど、活用の幅は広がります。

国土交通省では、DPF の利活用促進に向けた実証調査の公募（第 2 期）を行い、官学民の連携による AI やデータ活用に取り組んでいます。まずはぜひ一度、国土交通 DPF にアクセスして、お手元の業務に関連するデータを検索してみてください。

■お問合せ先

パシフィックコンサルタンツ株式会社
デジタルサービス事業本部 情報事業部
E-mail : dpf_pckk@tk.pacific.co.jp

■関連リンク

国土交通データプラットフォーム :

<https://data-platform.mlit.go.jp>

国土交通 DPF MCP サーバー (GitHub) :

<https://github.com/MLIT-DATA-PLATFORM/mlit-dpf-mcp>

国土交通省 技術調査 (国土交通 DPF 関連) :

https://www.mlit.go.jp/tec/tec_tk_000066.html

5. 【アンケートのご協力をお願いします！】

AIGID イブニングセミナー 今後の開催について」 (受付終了)

今後の AIGID 主催セミナーのご希望について、アンケートのご協力をお願い申し上げます。
締切 : 3 月 31 日(火) 17 時頃まで

来年度の AIGID 主催セミナーの開催計画に、皆様のご意見をぜひとも反映させていただきたく、何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

アンケート入力は [こちら](#) (Google Forms)

シェア歓迎 : <https://forms.gle/6JpG8UTVFBTKqRtN8> (上記入力フォームと同じ)

G空間情報センターお役立ち情報

◆ G空間情報センターFAQは[こちら](#)

法務省登記所備付地図データ関連の情報等、よくあるお問い合わせを掲載しております。

◆ [G空間情報センターのYouTubeチャンネル](#)をご活用ください☆

G空間情報センターの使い方解説や、最新データセットの公開ご案内等、動画でご案内しております。チャンネル登録いただきますと、新しい動画の公開通知等が取得可能です。ぜひご活用ください。

◆ G空間情報センターサイトからの[お問い合わせ](#)は、該当の[データセット名](#)と[URL](#)を併せてご連絡いただくとスムーズです。

ご意見・ご要望について

G空間情報センターは、高度な地理空間情報社会の実現と皆さまの事業の発展に寄与・貢献できることを目標としています。

当センターへのご要望、ご意見、ご助言等ございましたら、遠慮なくご連絡ください。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。

G空間情報センターのユーザーアカウント登録は、[こちら](#)

G空間情報センターのご要望、ご意見は、[こちら](#)

G空間情報センター

一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会(AIGID)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 1-10-5-203

Email : info@geospatial.jp

※当ニュースレターの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。